

トルコ・シリアの人たちに支援の手を！

校長 松本 雅史

おはようございます。皆さんもテレビの報道などでもご存知かと思いますが、先週の2月6日にトルコとシリア国境付近を震源とする大地震が起きました。今日で発生から1週間となりました。今分かっているだけでも、お亡くなりになった方は3万4000人を超え、住む家を失った人は、2300万人ともいわれます。この人数は、東京都の全人口の2倍に近い数です。一瞬にして、東京都2つ分の人々が住む家をなくしてしまったということです。東日本大震災でお亡くなりになった方は、2万2312人で、避難者は47万人でした。今回の地震は、それをはるかに上回る被害であることが、これらの数の上からも分かります。

この地震は1回だけではなく、何回にもわたって揺れが起きました。揺れの元となった場所を震源地といいますが、この震源地が広い範囲にわたっているのが、今回の被害を甚大なものにしてしています。私たち日本に置き換えると、地震が起こった範囲は、東京はおろか関東地方全域に匹敵します。それほど広い地域のいろいろな所から次々に地震が起き、建物を次々に破壊していったのです。

こうした中、日本の救助隊の第1陣は、翌日の7日に被災地に入り、救助活動を開始しています。5階を超える建物が、柱が全て壊れて完全にぺしゃんこになってしまったり、10階を超える高層の建物が、無残に横倒しになっていたり、町の悲惨な情景が私達のもとに伝えられています。そんなコンクリートの瓦礫の中から、奇跡的に救出された子供の報道を見ると、本当によかったと心がほっとします。「救援活動をしてきている皆さん頑張れ！」「どうか一人でも多く助かってください！」と祈るような気持ちになります。

今回地震が起きたシリアは、今戦争状態です。国の中で2つの勢力が、武器をもってお互いを殺しあっているのです。この戦争をのがれて国外に逃げた人たちのことを「難民」といいます。世界で一番難民を生んでいるのが、シリアです。そして、その難民たちを世界で一番多く受け入れてくれているのが、トルコなのです。困った時は助けるよ、という国を挙げての優しさをトルコの姿から感じます。6年生が、2学期に「服のカプロジェクト」で、難民の皆さんに服を送ろうという取組をしてくれました。これも、困っている人がいたら助け合おうという気持ちで行ったものです。あのとき学校で集めた服は、現地に届いていることと思います。

先週末に、雪が降りましたが、トルコもシリアも日本と同じように季節は冬です。夜は、氷点下を下る寒い寒さの中、救出を待っている人がいます。避難して支援を待っている人がいます。水道から水が出ない、電気がない、食べ物がなく、寒さをしのぐ毛布もない、避難のためのテントが次々に支援によって建てられましたが、テントに入れない人が外にあふれているといえます。

小平第五小学校は、日本赤十字社と連携した学校です。世界のこうした悲惨な状況を改善するために少しでも力になればと思います。皆さんも、協力できることがあったらぜひ実行してみてください。これで、今朝の話が終わります。

地震情報

2月6日 10時17分



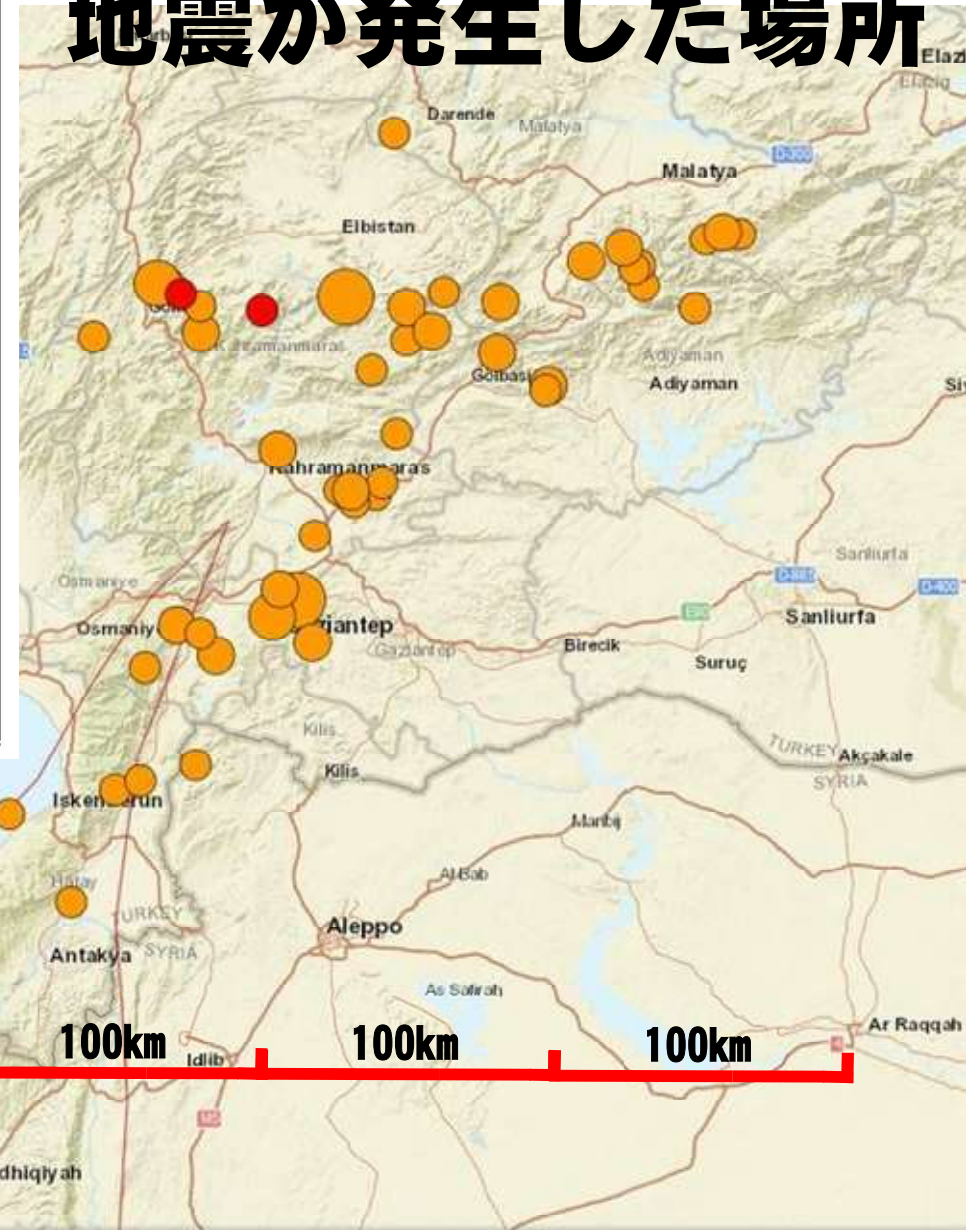
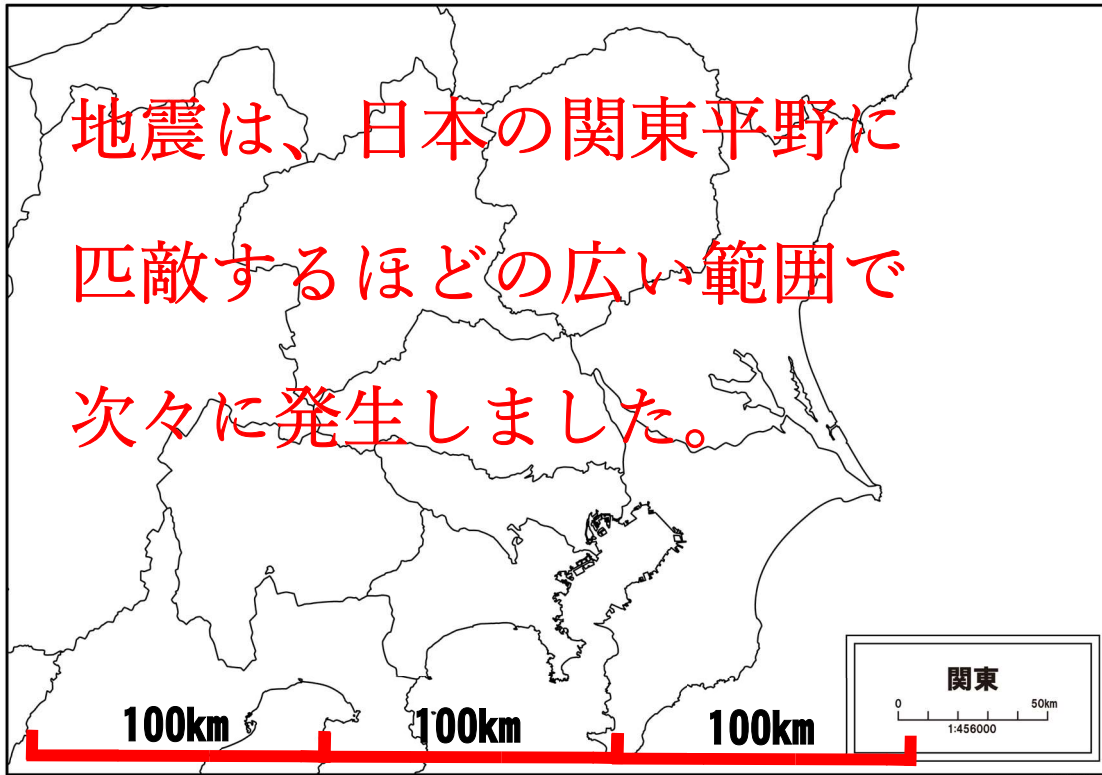
2023,2,6

トルコ・シリア国境付近で大地震
が発生 AM4:17 (現地時間)



地震が発生した場所

地震は、日本の関東平野に匹敵するほどの広い範囲で次々に発生しました。



5.1	3 km ENE of Kahramanmaraş...	2023-02-06 13:39:11 (UTC)	10.0 km
4.9	20 km SW of Göksun, Turkey	2023-02-06 13:17:41 (UTC)	10.0 km
4.7	17 km E of Göksun, Turkey	2023-02-06 13:11:56 (UTC)	10.0 km
5.0	3 km NNW of Nurhak, Turkey	2023-02-06 13:07:44 (UTC)	17.1 km